せの三冊
ひまし老物語

三ノ巻壱

三ノ巻二

肥前國御領分高伝寺内浮分高并御領邊
寺名目錄事

合

一 頭田十七丁内 寺田十丁 三斗代
近寺名十一丁 三斗代
長田名三丁 寺田 三斗代
川まの内乃藤平二作二丁 三斗代
寺田七反 但田作七反三寸ニ付
わくわち乃名二丁 寺田 三斗代
山口田丁ハ門徒寺内近寺内佐ニ山口田丁ハ門徒寺

いちうをきりて水すくしてわけてさいなんし
又いまふてこゝにこそうたてくらうのでろやまのたゝあり
このようにおうのいをかけ又すきやきしいちやくう
ちおうくはくなうくんうきくとうそうにいひ
おきたらんまくすこしもそんものそかよ
きうくうちよとくれ川くうくうくうく

仁手浦先ニて
仲間田ニて浦し又志佐内今ち
一 麦畑ニ不二負敷 寿本野ニ仰やお地ゟ寿仰地以
うち
一 山門寿本野
一 萩尾
仲間ニ而ハ誰ニ而ハ不能巨細ニ注文ニ守
濃状案ニ仰渡候ニ付而ハ
一 地ニ而ハ海ニ而ハ六一堂ニ而ハ
手鉾ニ而ハ連枝ニ而ハ

焼地ちんさしの
さしあらい 蒸
一・ 口き百姓ニ而ハ
一 領ニ而ハ
主人ニ人ニ
右仲間ニ
の件

連ちんさし
七ツ村浦浦

三ノ巻三

此者國許屋敷内清水ヶ丘領近辺名田
地以代官職事
神代　村武左衛門在高

右双人方被職自今年七月廿七日迄
二ヶ年勤おもや件名子事年貢し納米之儀文政
四酉年迄今年斗沙汰仕由付候間浅指貫人
清水ヶ丘代官お國納米参拾石不足分於相
手雑ものおも仕双斗お徴米之儀ハ勿論
二ヶ年沙汰結干済や拵相違被仰渡候ニ付お年貢お

滅亡之浪は明年七月お
受自害候ニ付一向不存
為又重罪之被補他人ニ
米代不下り之ニ付文ニ
徒手済又ハ為指引ニ
達ニ年正月十ヶ

七兵衛
清人善右衛門
河上庄左衛門

北本国中厨沖庄内浜今和領内近年名田数十七
丁せる銭十要ニ〆代お國納米参拾石自今年七
月至于明年七月お被名地以代磯ニ沙汰取件
参拾石米ニ中摺別江津又ハ津久土五月奉
川与被成ち御久在高ニ間ち下向従和ニ変浮
ち其三御由状ち奉田三千や上ち領家代ち
江ち志二千五百三枝ち一ち奉三ち上ち細ニ由ち事ち
ち高久参上国来すち
有其沸ちやち其三高ち修事や被名内仰七
丁七仰相副之庄浦又ハ津久童自今年七月至

明年霜月お被名地以代磯ニ二ち年ニ被沙汰取件
参拾石米七ち百お仰付名自二ち年内石被取代参拾
石米不銀ち分お相賄女浮領内現作ち自明年
九卯霜月至于明ニ年閏十二月ち迄舩相違於無者
久主高ち仰付地以代磯一年収内一向ニち地左七
お役下七令沸不ち好ち年氏上ち其浮又ハ沙ち事
右ち仰旨ち奉候通舩ち御お限永代可ち
ち状如ち高久在高七仰浮又ハ氏又書ち
手徒奉浮又ち其ち状仰奉候新作通舩ち自
親父清ニ手ち譲浮ニ童代百仰七ニ丁ち石上お浮

三ノ巻五

上総掃部助高政同左近左衛門将監貞義謀叛ニ
与ス依テ両国松浦親行源六浮池糸仕手書引ノ罪ニ
此ニ二方ヲ被ニ誅ス処ニ逆徒逃ニ
建武元年七月十七
進上　御奉行所

浮浮

紀伊國宇賀部庄雑掌
事書ニ云ク依ニ仰下ス
之状ヲ以ニ六月十
進ス　現存ノ下ス

浮浮

北面桂浦朝鳥源六淳之上

欲早抽軍忠上着腸御判倫後證文事

右菊池武敏以下凶徒等蜂起之由注申訖仍列参去
月十六日於凶徒後国今開聖断以下所々抽軍忠令分取之
御勘文炳焉上神田孝市三前石志源三前等令見
知訖然早下賜御判為備後證文上如件

建武三年六月日

宗對馬守先祖世貞盛
初而對馬国ヲ拝任之

宗刑部少輔貞盛

依志寺田名ノ内之地

右件地者貞盛相伝之所領也而依為凶徒
所押領不能知行之処今度抽軍忠令分取
之仍安堵之状如件

建武三年六月日

宗刑部少輔貞盛

二ノ巻二

依世ニ勃乱ハ多人ヲ永ク苦シテ何ノ
ハ不知ト雖ク都鄙ノ諸人ヲ
ヲ下ニ新田多ク七月多岩松
ハ其ノ頃ノ事ヲ語ル人ク
ニ当ル事ヲ書ヲ以テ本ト

十一ノ十

義家八代孫一色宮内卿公深男
一色二郎範氏左京大夫直氏父

二ノ巻三

十一ノ十二

六ノ巻五

仁木右京大夫義長　元名切下ナシ　近嶋源次郎納之末輪ナリ

万治貳酉年仲夏向也模写一族秉月十日写ヲ

故地差出帳之件

貞和二年六月廿二日　　右京ちゑ

肥前國佐志見宮加志浦内田地屋敷等差出帳書所
合上三事　譲申し候
貞和二
十月廿日

松浦佐志見宮加志二郎殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞和二年八月十七日

六ノ巻・壱

筑前国山門々徒功人拾人肉取鴻源次郎幷今中東
房之従人法師原次郎幷同重紀五郎幷
従人法師原次郎幷同重紀五郎幷
従人法師原次郎幷同重紀五郎幷

貞和四年閏六月六日

源泰

（裏ノ判表ノ名ノウラニ有之）

沙汰

南帝第六宮吏部親王良懐（ママ）之令旨

二ノ巻

（征夷大将軍関西親王ト世ニ称スル也
元徳二年九月以下向ノ令旨

壱

（紙）

（紙）

（紙）

依之私物等ニ至迄没収ノ上厳重在所ニ於テ月
々理非ヲ糺ノ上御届ニ及ヒ御扶持ヲ以テ居合之者黒代宮内
御処置ヲ以テ任正理ニ御法度ヲ御守リ
候ヲ堅ク御申渡之上御扶持ヲ以テ御預ケ申ス者也

元亀三年申ノ十月十三日　　慶

武者所道祐

其方ヒトヘニ法度退治事ヲ存
候通ニシテ致忠節之条尤被思召候
元亀三年十月二日　　木戸長門

京都

其ヲ以下ニ法度退治事ヲ
存候通ニシテ忠節之条尤被思召候
元亀三年十月二日　　木戸長門

京都

其ヲ以下ニ法度退治事ヲ
存候通ニシテ忠節之条尤被思召候
元亀三年十月二日　　木戸長門

京都

二ノ巻
四

前ニ同
源蔵人源坡言上書

日高八郎殿

松浦波多源蔵人源坡申
波後国床河合戦軍忠事

右去九月廿九日於床河陣波後宇頼尚以下凶徒等
寄来同致散々合戦抽忠節被自身数ヶ所疵訖
且勲文明鏡也然早下賜御判為備ニ将来之亀
鏡言上如件

観應二年十月　日

進上　御奉行所

六ノ巻七
同上

筑前国内野田地頭職事
右当知行之地
観應二年十月　日

松浦鷹島次郎菊丸

相浦班鳴添次納就御教書令奉上之上者班鳴并
赤木村況并國忠名門廊中屋及新恩之地肥前國佐
嘉郡内千栗鳴以下所領等可被經安堵御沙汰
由候等事依仰執達如件 建仁三年十月廿日 相模守 在判
（此文書二通同文不同）

源重 源傳 源重 源壹 源弘 源持

（此の判書二有之）

卅後守清

源定 源重 源湛

卅九日御下文者現存源次入道行法就被相傳
諾傍例可備證文之間源次入道行法家中之憂
浪十次前成遠乱之仍行法上洛退隠小次前并
次行法代古仏手以成遠之子孫被返渡之

二ノ巻
五

二ノ巻
六

三ノ巻六

武内國行　居福田村田内壹所同益田内壹所
ちくせんの國山石戸御内中原名ハ行法り知行
一村事
右所領等ハ行法り重代お傳私領ヶ猶に志あ[illegible]
よて望てとの本せ[illegible]文四下文いちをねまて除に
帝にかつアあこふ所ヤあらふ大いふん北朝の[illegible]所を
北国ヶ山野ホたりくしのさよ海夫いトお領ヶ
志て下知行但除官事にかやうにゆうもなふとも
四帝のみ係なくてなやにしきたふまのふん等
ちやくめひさいる宮の比所を二の知行り[illegible]行法る

みさしちんるい北ゆより[illegible]
あくばくりかれさなふわりかの所井下領
四帝官ふこ添まて他のさまたをなくオ知行仍而
後日のため状件

延文五年[illegible]月　日　法印

尾張左京大夫氏経

為四法返法西ヶ下向ヶ池集下院重忠ニ状
如件

康安元年十月廿三日　左京大夫

橘佐志菊寿丸

前ニ同

為西楼遅滞不参下向之早馳参之段
速令伴

寛安二年二月十二

佐志菊寿丸

左京亮殿

前ニ同

於御方文祖代之令対決佐志前相続之由尤候

北畠直資次男筑後
左衛門尉顕國

松浦波多久當寿丸申

右源而國おゐて長々忠節之段
相共於合戦ハ弁軟文源若人被令見諸
届おゐてハ其業として實法五箇字長太宜お江封
訴条 御大将御米百御見知之上ハ結所到而御褒
美浪粗ニ之御

當安二年十月廿日 判

進上 御奉行衆

左衛門尉

仕敢而退申候 今度忠節ハ不軽之
御感之余御判ニ而被下候ハ
子孫ニ御名誉ニ一日之忠節
其家ニ永ニ子孫ニ入令無文
名字ニ而も被申付ハ
以一行之事ニ而も御感之段ハ
七月十二

源之 佐志源次
被之

前亜相藏

太宰筑後守頼基 少貳頼尚カ場

二ノ巻
八

波川中務太輔源真頼男武蔵守義行

渋川源義行　中務太輔直頼子従五位下武蔵守
右衛門佐毋者　師直女

為宗対治下着松浦しまの
以治めける処の浪をしづめ候
事
慶安四年十月廿一日
松倉三平殿

為宗対治下着松浦しまの
治めける処の浪をしづめ候
慶安四年十月廿一日
松田源左衛門殿

松浦班鳩地頭屋代左近太夫
御下着肥前國松浦郡の津
馳参候、
十月廿七日

堺侍庄年貢并城責（合戦一時）致軍忠
右ノ七カ所 右之子
村海 寺海 式條勘文状如当也并三ヶ
国庄鳥帽子嶽御合戦之時知行、然早使傍
例下賜御判倫将来亀鏡、仍為後面目粗注
言上如件

寛安五年二月日　承り

二八ノ巻八

今川了俊

筑紫国之地本御内故多不罷出野心並有同治末事

二ノ巻十一

同上

肥前国松浦波多対馬頭武事任相傳文書旨不
可有相違之状如件

康暦元年十月晉

為国所忠有異治々不罷出第一之忠節之間
永和三年三月十六日　沙弥

筑紫有御方々

治多太和荏手治申記和国大鳥郡池浦治多村地頭職事付
吉月四日沖成敗之砂汰并地於彼治之々施進治九
状如件

寛元参年十月十七日　　左京権大夫

草野隆河入道殿
長瀬勝治守殿

大和権守祝
始新蔵人按男也

今川了俊

松浦有浦安地乃申有浦百事上載書劃之状申荘
彼和泉三帰及遠乱故之事不及細之今由委之旨
之数申之状為事次不及披之承伏押
領之条随以招寇科之不浅為遠流処罪
下比垂恩之下免之押状之旨如件

永徳元年十月十日　　俊

俊吉年四十四歳

二ノ巻
十二

六ノ巻二

今川了俊

沙弥建覚

佐志寺田男申渡前[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

永徳二年七月十六日

井伊谷野武[illegible]

今川了俊

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

佐志多よ

封ノ上ハ書

佐志多尺

一同就中ハ

上ハ下 沖ノ浦ノ村ニ相守事

及ヒ申ノ刻ニ

安政五年三月

伊秋

進上 沖ノ浦

古ノ判ニ裏ノ名ノ下ノ処ニ有リ

松浦法印

先今般

此ヒモヲ

お預シ申候

亥ノ年

亥正二月廿八日

松浦佐志

申上ル條ニ

一 寅ノ四月廿七日ニ馬渡石等沢来七ツ半ニ船ノ入
あり

一 夜討ノ刻ハ七ツ半ニ来ル四ツ半ニ切上ル

一 四月廿七日搦手ニ御ヲ定メラレ一ノ門ニ乗入申候
まきらの下ニ矢倉ニ一番ニ乗申候ノ
門ノきわニ而くそ
せいお死仕刻御
らまし候黒田

市田権内
御ヲ定メラレ
名ヲ名乗申候
あうしら
たま野庵助
ろう

一 四月廿七日ニ石垣ヲ上リ城ノ
申候ニ而大勢注進ニ
将監ニ門ニ乗申候
一 四月廿七日ニ城ノ

山田三左衛門宗忠返翰

封ノ上ハ書

山田休三兵衛